

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 10-285092
(43)Date of publication of application : 23.10.1998

(51)Int.Cl. H04B 7/06
H01Q 3/26
H01Q 21/22
H04B 7/10
H04B 7/26

(21) Application number : 09-099640

(71)Applicant : MATSUSHITA ELECTRIC IND CO LTD

(22) Date of filing : 02.04.1997

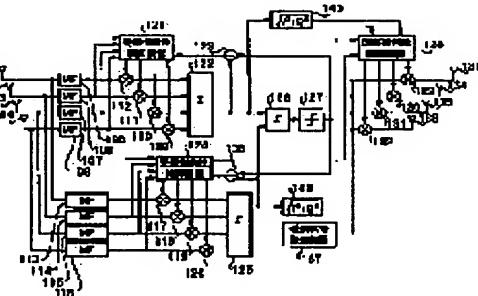
(72)Inventor : YUKITOMO HIDEKI
HIRAMATSU KATSUHIKO

(54) ADAPTIVE TRANSMISSION DIVERSITY SYSTEM AND ADAPTIVE TRANSMISSION DIVERSITY METHOD

(57) Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide the adaptive transmission diversity system that detects a directivity pattern of a direct wave and an indirect wave arrived at a different time so as to decide a transmission directivity pattern in response to the detected directivity pattern and to provide concrete selection criteria to decide the transmission directivity pattern.

SOLUTION: The system adopts the spread spectrum method and a reception directivity controller 121 detects a directivity pattern of a direct wave and an indirect wave arrived at a different time. A transmission directivity controller 128 is operated according to a transmission directivity pattern that is decided by selecting a transmission directivity pattern from a directivity pattern for each time of each arrived wave obtained by the reception directivity controller 121 or synthesizing the directivity patterns. Thus, higher transmission performance is realized.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 04.08.2000

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平10-285092

(43)公開日 平成10年(1998)10月23日

(51) Int.Cl.⁶
H 0 4 B 7/06
H 0 1 Q 3/26
21/22
H 0 4 B 7/10
7/26

識別記号

F I	
H 0 4 B	7/06
H 0 1 Q	3/26
	21/22
H 0 4 B	7/10
	7/26

z

審査請求 未請求 請求項の数10 FD (全 9 頁)

(21) 出願番号 特願平9-99640

(71) 出席人 000005821

松下電器産業株式会社

大阪府門真市大字門真1006番地

(22)出願日 平成9年(1997)4月2日

(72) 発明者 行友 葵記

神奈川県横浜市港北区

量 松下通信工業株式会社内

平成9年(1997)4月2日

(72) 發明者 平松 騰彥

神奈川県横浜市港北区綱島東四丁目

量 松下通信工業株式会社内

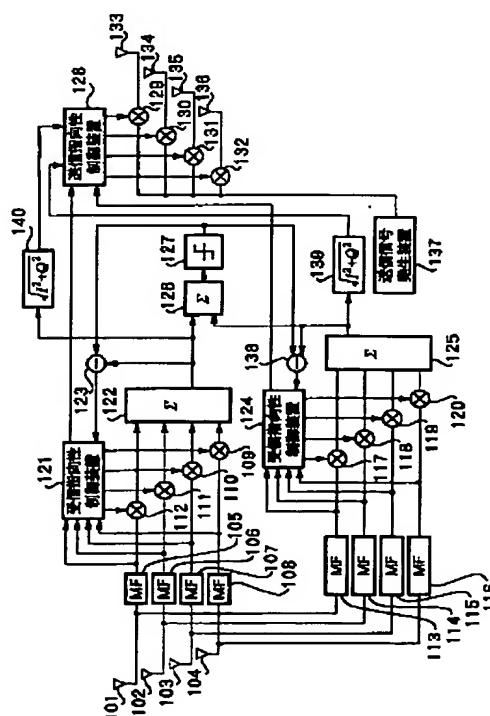
(34)代理人 基里士 館田 公一

(54) 【発明の名称】 適応送信ダイバーシチ装置及び適応送信ダイバーシチ方法

(57)【要約】

【課題】 時間的にずれて到来する直接波・間接波の指向性パターンを検出し、その指向性パターンに応じて送信指向性パターンを決定し得る適応送信ダイバーシチ装置を提供すること。送信指向性パターンを決定するための具体的な選択基準を与えること。

【解決手段】 スペクトル拡散方式を採用し、時間的にすべて到来する直接波・間接波の指向性パターンを受信指向性制御装置により検出し、その受信指向性制御装置から得られる各到来波の時間毎の指向性パターンの中から、送信用指向性パターンを選択するか合成するかして決定した送信指向性パターンに従ってよう送信指向性制御装置を動作させる変更することにより、より高い送信性能を実現するようにした。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 受信した同一送信信号を到来波毎に分離する分離手段と、分離した到来波の受信タイミング毎に受信指向性を定める受信指向性パターン生成手段と、前記受信指向性パターンを選択又は合成することにより送信指向性を定める送信指向性パターン生成手段と、前記送信指向性に従って信号を送信する送信手段と、を具備することを特徴とする適応送信ダイバーシチ装置。

【請求項 2】 受信信号を直接波と間接波とに分離する分離手段と、分離した前記直接波と間接波との受信タイミング毎に受信指向性を定める受信指向性パターン生成手段と、前記受信指向性パターンを選択又は合成することにより送信指向性を定める送信指向性パターン生成手段と、前記送信指向性に従って信号を送信する送信手段と、を具備することを特徴とする適応送信ダイバーシチ装置。

【請求項 3】 送信指向性パターン生成手段による受信指向性パターンの選択は、アンテナに対して並列に接続された複数の受信信号処理系の出力を比較して行うことを特徴とする請求項 1 又は請求項 2 記載の適応送信ダイバーシチ装置。

【請求項 4】 複数の受信信号処理系の出力比較を、各々の受信信号処理系の受信信号パワにより行うことを特徴とする請求項 3 記載の適応送信ダイバーシチ装置。

【請求項 5】 複数の受信信号処理系の出力比較を、各々の受信信号処理系の所望信号電力対干渉信号電力比により行うことを特徴とする請求項 3 記載の適応送信ダイバーシチ装置。

【請求項 6】 送信指向性パターン生成手段による受信指向性パターンの合成は、アンテナに対して並列に接続された複数の受信信号処理系の出力の受信パワ又は所望信号電力対干渉信号電力比のいずれかに基づいて行うことを特徴とする請求項 1 又は請求項 2 記載の適応送信ダイバーシチ装置。

【請求項 7】 複数のアンテナで受信した信号をマッチドフィルタにより逆拡散した出力信号と受信指向性制御手段の出力信号とを各々乗算した上で全てを加算して出力する複数の受信信号処理系と、これら複数の受信信号処理系の出力をRake合成する合成手段と、この合成手段の出力と前記受信信号処理系の出力との差を求める誤差検出手段と、この誤差検出器の出力と前記マッチドフィルタの出力とから前記受信指向性制御手段の前記乗算器への出力値を決定する制御手段と、前記複数の受信信号処理系の出力を入力して受信信号のパワ又は所望信号電力対干渉信号電力比を計算する検出手段と、この検出手段の出力を入力し受信パワ又は所望信号電力対干渉信号電力比がより大きい受信信号処理系の受信指向性制御手段の出力に従って送信指向性を決定する送信指向性制御手段と、この送信指向性制御手段の出力を送信信号に乘算してアンテナから送信する送信制御手段と、を具備す

ることを特徴とする適応送信ダイバーシチ装置。

【請求項 8】 複数のアンテナで受信した信号をマッチドフィルタにより逆拡散した出力信号と受信指向性制御手段の出力信号とを各々乗算した上で全てを加算して出力する複数の受信信号処理系と、これら複数の受信信号処理系の出力をRake合成する合成手段と、この合成手段の出力と前記受信信号処理系の出力との差を求める誤差検出手段と、この誤差検出器の出力と前記マッチドフィルタの出力とから前記受信指向性制御手段の前記乗算器への出力値を決定する制御手段と、前記複数の受信信号処理系の出力を入力して受信信号のパワ又は所望信号電力対干渉信号電力比を計算する検出手段と、この検出手段の出力を入力し受信パワ又は所望信号電力対干渉信号電力比のいずれかに基づいて前記複数の受信指向性制御手段の出力を合成して送信指向性を決定する送信指向性制御手段と、この送信指向性制御手段の出力を送信信号に乘算してアンテナから送信する送信制御手段と、を具備することを特徴とする適応送信ダイバーシチ装置。

【請求項 9】 受信した同一送信信号を到来波毎に分離し、分離した到来波の各到来波の受信タイミング毎に受信指向性を定める受信指向性パターンを生成し、前記到来波に基づいて前記受信指向性パターンを選択または合成して送信指向性パターンを生成し、生成した前記送信指向性パターンに従って信号を送信することを特徴とする適応送信ダイバーシチ方法。

【請求項 10】 アンテナに対して並列に接続された複数の受信信号処理系により受信した同一送信信号を到来波毎に分離する一方、前記複数の受信信号処理系の出力を比較・判定した結果に基づき指向性パターンを生成することを特徴とする請求項 9 記載の適応送信ダイバーシチ方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明はスペクトル拡散通信用の送信ダイバーシチ技術に関し、特に、受信指向性パターンに応じて送信指向性パターンを決定し得る適応送信ダイバーシチ装置に関する。

【0002】

【従来の技術】従来の時分割多重システムや周波数多重システムにおける送信ダイバーシチ技術について、図 5、図 6 を用いて説明する。図 5 は、従来の適応送信ダイバーシチ装置のブロック図であり、図 6 は、電波の到来方向と受信指向性パターンとの関係図である。

【0003】図 5 で、時刻 t において受信用アンテナ 501、502、503、504 で受信され A/D 変換及び直交検波された複素信号をそれぞれ $S_1(t)$ 、 $S_2(t)$ 、 $S_3(t)$ 、 $S_4(t)$ とする。これらに受信指向性制御装置 513 の出力 $W_1(t)$ 、 $W_2(t)$ 、 $W_3(t)$ 、 $W_4(t)$ を乗算器 509、510、511、512 を用いて乗算してやり、加算器 514 で合成する。このときの加算器 514 の出

力を $S(t)$ とすると、

$$S(t) = \sum_1^4 W_i(t) S_i(t)$$

と表せる。

【0004】このように複数アンテナの受信信号に適当な複素数を乗算して合成すれば、アンテナ群全体として図62のように、平面上で指向性を得ることができる。例えば、図6の601の方向から所望信号が到来しており、602の方向から干渉信号が到来している場合、図5の受信指向性制御装置513は、図6の603のように指向性を制御して、所望信号に対しては強く、干渉信号については弱く受信することができるため、受信性能を高めることができる。判定器516は、合成信号 $S(t)$ を判定した結果 $D(t)$ を出力する。誤差検出器51

$$W(t+1) = W(t) + \mu (S(t) - D(t))^T S(t)$$

と表せる（ μ はステップ係数である）。送信指向性制御装置517は、受信指向性制御装置の出力を元に送受信間の周波数差等を考慮して送信用のウェイト出力を算出する。乗算器522、521、520、519は送信指向性制御装置517の出力と送信信号発生装置518からの信号を乗算する。アンテナ523、524、525、526は乗算器から与えられた信号をRF帯に変換し各アンテナ523、524、525、526から送信する。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】上記従来の時分割及び周波数分割用送信ダイバーシチ装置においては、直接到来する受信波と、ビルや山等によって反射されて間接的に到来する受信波とを、時間的なずれを考慮して検出し分離することが困難であったため、到来波毎に指向性パターンを形成することは困難であり、その結果、受信波に対応する指向性パターンで送信電力を制御することが困難であった。

【0007】本発明は、時間的にずれて到来する直接波・間接波の指向性パターンを検出し、その指向性パターンに応じて送信指向性パターンを決定し得る適応送信ダイバーシチ装置を提供することを目的とする。また、本発明は、送信指向性パターンを決定するための具体的な選択基準を与えることを目的とする。

【0008】

【課題を解決するための手段】上記問題を解決するために、本発明は、スペクトル拡散方式を採用し、時間的にずれて到来する直接波・間接波の指向性パターンを受信指向性制御装置により検出し、その受信指向性制御装置から得られる指向性パターンの中から、送信用指向性パターンを選択するか合成するかして決定した送信指向性パターンに従って送信指向性制御装置を動作させることにより、より高い送信性能を実現するようにした。

【0009】具体的には、本発明の請求項1に記載の発明は、受信した同一送信信号を到来波毎に分離する分離

【数1】

(1)

5は合成信号 $S(t)$ と判定結果 $D(t)$ の差 $S(t) - D(t)$ を出力する。受信指向性制御装置513は誤差検出器515の出力と $S_1(t)$ 、 $S_2(t)$ 、 $S_3(t)$ 、 $S_4(t)$ を元に、その出力複素数ウェイト $W_1(t)$ 、 $W_2(t)$ 、 $W_3(t)$ 、 $W_4(t)$ を更新する。

【0005】例えば、受信信号ベクトルを、 $Sig(t) = (S_1(t), S_2(t), S_3(t), S_4(t))^T$ とし、受信指向性制御装置の出力を $W(t) = (W_1(t), W_2(t), W_3(t), W_4(t))^T$ と表記すると、

【数2】

$Sig(t)$ (2)

手段と、分離した到来波の受信タイミング毎に受信指向性を定める受信指向性パターン生成手段と、前記受信指向性パターンを選択又は合成することにより送信指向性を定める送信指向性パターン生成手段と、前記送信指向性に従って信号を送信する送信手段と、を具備する構成とした。

【0010】また、請求項2記載の発明は、受信信号を直接波と間接波とに分離する分離手段と、分離した前記直接波と間接波との受信タイミング毎に受信指向性を定める受信指向性パターン生成手段と、前記受信指向性パターンを選択又は合成することにより送信指向性を定める送信指向性パターン生成手段と、前記送信指向性に従って信号を送信する送信手段と、を具備する構成とした。

【0011】このように、受信した同一送信信号を到来波毎に分離して、各々の受信信号処理系の受信指向性パターンを選択・合成して送信指向性パターンを生成することにより、送信時の指向性を最適に制御でき、送信精度が向上するとともに、送信側の消費電力を下げることができる。特に、請求項1記載の発明では、到来波を多く捕らえることにより、送信性能をより向上させることができる。

【0012】また、請求項3記載の発明は、送信指向性パターン生成手段による受信指向性パターンの選択は、アンテナに対して並列に接続された複数の受信信号処理系の出力を比較して行うようにした。

【0013】また、請求項4記載の発明は、複数の受信信号処理系の出力比較を、各々の受信信号処理系の受信信号パワーにより行うようにした。

【0014】また、請求項5記載の発明は、複数の受信信号処理系の出力比較を、各々の受信信号処理系の所望信号電力対干渉信号電力比により行うようにした。

【0015】これらのように、受信指向性パターンを選択して送信指向性パターンを生成することにより、簡単に送信指向性電力を求めることができる。その際、受信

信号パワを用いることで、より簡易に送信指向性電力を求めることができ、所望信号電力対干渉信号電力比を用いることで、より精度よく送信指向性電力を求めることができる。

【0016】また、請求項6記載の発明は、送信指向性パターン生成手段による受信指向性パターンの合成は、アンテナに対して並列に接続された複数の受信信号処理系の出力の受信パワ又は所望信号電力対干渉信号電力比のいずれかに基づいて行う構成とした。

【0017】このように、受信指向性パターンを合成することで、より最適な送信指向性パターンを形成することができ、さらに他への干渉を軽減することができる。また、送信電力を抑えることができ消費電力を低減することにもなる。

【0018】また、請求項7記載の発明は、複数のアンテナで受信した信号をマッチドフィルタにより逆拡散した出力信号と受信指向性制御手段の出力信号とを各々乗算した上で全てを加算して出力する複数の受信信号処理系と、これら複数の受信信号処理系の出力をRake合成する合成手段と、この合成手段の出力と前記受信信号処理系の出力との差を求める誤差検出手段と、この誤差検出器の出力と前記マッチドフィルタの出力とから前記受信指向性制御手段の前記乗算器への出力値を決定する制御手段と、前記複数の受信信号処理系の出力を入力して受信信号のパワ又は所望信号電力対干渉信号電力比を計算する検出手段と、この検出手段の出力を入力し受信パワ又は所望信号電力対干渉信号電力比がより大きい受信信号処理系の受信指向性制御手段の出力に従って送信指向性を決定する送信指向性制御手段と、この送信指向性制御手段の出力を送信信号に乗算してアンテナから送信する送信制御手段と、を具備する構成とした。

【0019】また、請求項8記載の発明は、複数のアンテナで受信した信号をマッチドフィルタにより逆拡散した出力信号と受信指向性制御手段の出力信号とを各々乗算した上で全てを加算して出力する複数の受信信号処理系と、これら複数の受信信号処理系の出力をRake合成する合成手段と、この合成手段の出力と前記受信信号処理系の出力との差を求める誤差検出手段と、この誤差検出器の出力と前記マッチドフィルタの出力とから前記受信指向性制御手段の前記乗算器への出力値を決定する制御手段と、前記複数の受信信号処理系の出力を入力して受信信号のパワ又は所望信号電力対干渉信号電力比を計算する検出手段と、この検出手段の出力を入力し受信パワ又は所望信号電力対干渉信号電力比のいずれかに基づいて前記複数の受信指向性制御手段の出力を合成して送信指向性を決定する送信指向性制御手段と、この送信指向性制御手段の出力を送信信号に乗算してアンテナから送信する送信制御手段と、を具備する構成とした。

【0020】これらにより、より具体的な装置構成が明らかにされる。

【0021】以上の発明を実施する際の装置は特に限定されず、請求項9記載の発明のように、受信した同一送信信号を到来波毎に分離し、分離した到来波の各到来波の受信タイミング毎に受信指向性を定める受信指向性パターンを生成し、前記到来波に基づいて前記受信指向性パターンを選択または合成して送信指向性パターンを生成し、生成した前記送信指向性パターンに従って信号を送信する適応送信ダイバーシチ方法によって、上記発明と同等の作用効果を奏する。

【0022】上記方法は、請求項10記載の発明のように、アンテナに対して並列に接続された複数の受信信号処理系により受信した同一送信信号を到来波毎に分離する一方、前記複数の受信信号処理系の出力を比較・判定した結果に基づき指向性パターンを生成する方法により、より確実簡易に実施できる。

【0023】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の形態について、図を用いて説明する。

【0024】(実施の形態1)図1は、本発明の実施の形態1の適応送信ダイバーシチ装置のブロック図であり、図2は電波の到来方向と指向性パターンとの関係を示す図である。図3は、電波の到来時間と電力との関係の例をあらわす図である。

【0025】図1の適応送信ダイバーシチ装置において、複数の受信アンテナ101、102、103、104で受信された信号は、マッチドフィルタ105、106、107、108、でA/D変換され逆拡散される。乗算器112、111、110、109は、これらマッチドフィルタ105、106、107、108の出力と受信指向性制御装置121の出力を乗算する。加算器122は、乗算器112、111、110、109の出力を加算する。

【0026】また、マッチドフィルタ113、114、115、116は、アンテナ端で受信されA/D変換された信号を逆拡散する。乗算器117、118、119、120は、マッチドフィルタ113、114、115、116の出力と受信指向性制御装置124の出力を乗算する。加算器125は、乗算器117、118、119、120の出力を加算する。このように、同様の受信信号処理系を並列配置するのは、異なるタイミングで到来する波を捕らえるためである。

【0027】Rake装置126は、加算器122の出力と加算器125の出力とをRake合成する回路であり、合成信号を、判定器127に出力する。この判定器127は、判定器127はRake合成(信号処理)されたデータを、元の“1”“0”的信号に戻す判定を行うものであり、その出力は、判定器127の出力と加算器122の出力との差を求める誤差検出器123と、判定器127の出力と加算器125の出力との差を求める誤差検出器138との双方に出力される。

【0028】受信指向性制御装置121は、マッチドフィルタ105、106、107、108の出力と誤差検出器123との出力に基づいて乗算器112、113、114、115へ出力する値を制御する。同様に、受信指向性制御装置124は、マッチドフィルタ113、114、115、116の出力と誤差検出器138との出力から乗算117、118、119、120へ出力する値を制御する。

【0029】パワ検出器139、140は、加算器122と加算器125との出力から、それぞれの受信信号のパワを計算し、送信指向性制御装置128に出力する。この送信指向性制御装置128は、受信指向性制御装置121と受信指向性制御装置124の出力のうち、所望信号の受信パワーが大きい方を選択して送信指向性を制御する。

【0030】送信信号発生装置137から出力される送信信号は、乗算器129、130、131、132において、送信指向性制御装置128の出力と合成され、アンテナ133、134、135、136から送信される。

【0031】尚、本実施の形態では、アンテナの数は4

$$S_1(t) = \sum_1^4 w_{1i}^*(t)^T s_{1i}(t)$$

となる。

【0035】マッチドフィルタ113、114、115、116は、入力された信号を、上記マッチドフィルタ108、107、106、105とは異なるタイミングで到来する波を捕らえるよう逆拡散する。乗算器117、118、119、120は、受信指向性制御装置124の出力とマッチドフィルタ113、114、115、116の出力を乗算する。加算器125は、乗算器

$$S_2(t) = \sum_1^4 w_{2i}^*(t)^T s_{2i}(t)$$

となる。

【0036】Rake装置126は加算器122と加算器125の出力を合成する。ここでは最大比となるよう合成

$$S(t) = \sqrt{S_1(t)^2 + S_2(t)^2} \cdot (S_1(t) \cdot S_1(t) + S_2(t) \cdot S_2(t))$$

とするが他の方法を用いて合成してもよい。また、マッチドフィルタや受信指向性制御装置をさらに多く用いて、多くの到来波を合成するようにしてもよい。

【0037】判定器127は、合成受信信号を判定する。判定結果をD(t)とすると、誤差検出器123、138は、この判定結果と元の信号との誤差を出力する。

例えば、誤差検出器123は、D(t)-Sig1(t)を、誤差

$$W_1(t+1) = W_1(t) + \mu (D(t) - Sig_1(t))^T Sig_1(t)$$

のようにすればよい。

【0039】同様に、受信指向性制御装置124は、

$$W_2(t+1) = W_2(t) + \mu (D(t) - Sig_2(t))^T Sig_2(t)$$

のようにすればよい。

本で構成したが、アンテナ数を少なくすることで演算量を削減でき、逆に多くすることで性能を向上させることができる。

【0032】以上のように構成された適応送信ダイバーシチ装置の動作について、より詳細に説明する。

【0033】受信アンテナ101、102、103、104で受信された受信信号は、R F 帯域、IF 帯域からベースバント帯域への帯域変換、検波などの処理が施された後に、マッチドフィルタ105、106、107、108に入力される。マッチドフィルタ105、106、107、108は、入力された信号を逆拡散し、その出力と受信指向性制御装置121の出力とは、乗算器112、113、114、115で乗算される。

【0034】加算器122では、乗算器112、113、114、115、116の出力を加算する。例えば、マッチドフィルタ108、107、106、105の時刻tにおける出力をベクトル表示し、 $Sig_1(t) = \{S_{11}(t), S_{12}(t), S_{13}(t), S_{14}(t)\}^T$ とし、受信指向性制御装置121の出力を $W_1(t) = \{W_{11}(t), W_{12}(t), W_{13}(t), W_{14}(t)\}^T$ とすると、加算器122の出力 $S_1(t)$ は、

【数3】

(3)

$117, 118, 119, 120$ の出力を加算する。マッチドフィルタ113、114、115、116の時刻tにおける出力をベクトル表示し、 $Sig_2(t) = \{S_{21}(t), S_{22}(t), S_{23}(t), S_{24}(t)\}^T$ とし、受信指向性制御装置124の出力を $W_2(t) = \{W_{21}(t), W_{22}(t), W_{23}(t), W_{24}(t)\}^T$ とすると、加算器125の出力 $S_2(t)$ は、

【数4】

(4)

後の出力 $S(t)$ を、

【数5】

(5)

検出器138は $D(t) - Sig_2(t)$ を、それぞれ受信指向性制御装置121、124に出力する。受信指向性制御装置121、124はこれを元にその出力を更新する。

【0038】例えば、受信指向性制御装置121の出力を、

【数6】

(6)

【数7】

(7)

【0040】一方、送信信号発生装置137は送信する

データを用意し、送信指向性制御装置128の出力に従って送信信号の指向性を制御する。パワ検出器139、140は、加算器122と加算器125との出力から、受信信号のパワ $|S_1(t)|$ 、 $|S_2(t)|$ を計算し、送信指向性制御装置128に与える。

【0041】送信指向性制御装置128は、受信指向性制御装置121と、受信指向性制御装置124とからウェイトW1(t)、W2(t)を得る。例えば、 $|S_1(t)| > |S_2(t)|$ の場合には、送信用ウェイトとしてW1(t)を用い、そうでない場合にはW2(t)を用いて送信用ウェイトを算出する。

【0042】例えば、図2の201のような時間で到来する所望信号のタイミングにおいては、受信指向性制御装置121は指向性パターンを202のように形成し、203のような時間で到来する所望信号のタイミングにおいては、受信指向性制御装置124は指向性パターンを204のように形成しているとする。205、206は、それぞれのタイミングにおける干渉信号の到来方向を示す。

【0043】図3にこのときの各到来波の受信電力を示す。201は201のタイミングで到来する所望信号の受信電力を示し、203は203のタイミングで到来する所望信号の受信電力を示しており、205、206は、到来する干渉信号の受信電力を示している。

【0044】送信指向性制御装置121は、受信電力の大きさを比較して201の方が大きいことから、送信指向性パターンとして202を選択する。この送信指向性パターンに従って送信指向性制御装置128から出力される制御信号と送信信号発生装置137から出力される送信信号とが、乗算器129、130、131、132で合成され、アンテナ133、134、135、136から送信される。送受信間で周波数帯域が異なる場合には、送信指向性制御装置128はその変換も併せて行う。

【0045】尚、アンテナ133、134、135、136からの送信前に拡散、D/A変換、ベースバント帯域からIF、RF帯域への変換も行われる。このとき、送信用アンテナ133、134、135、136を、時分割多重や周波数分割多重とすることにより、受信用アンテナと共に用することが可能である。

【0046】以上のように本発明の実施の形態1によれば、送信指向性制御装置が受信信号の受信電力の大きさを比較して送信指向性パターンを決めることにより、最適な指向性パターンを選択でき、他への干渉を軽減できるため、全体として送信電力を下げることができる。

【0047】(実施の形態2)次に、本発明の適応送信ダイバーシチ装置の実施の形態2について説明する。図4は、本発明の実施の形態2の適応送信ダイバーシチ装置のブロック図である。実施の形態2の適応送信ダイバーシチ装置は、図1に示した実施の形態1と略同様である

ため、同一の構成要素・手段には、同一番号を付した。

【0048】実施の形態1との相違は、送信指向性制御装置128と受信信号のパワを計算するパワ検出器として、SIR測定器439、440を用いた点にある。実施の形態1では、受信信号のパワ計算を受信信号のパワ $|S_1(t)|$ 、 $|S_2(t)|$ により行ったのに対して、実施の形態2では、パワ検出を行うSIR測定器439、440が、加算器122と加算器125との出力から、受信信号に含まれる所望信号対干渉信号の比を計算し、送信指向性制御装置128に与えるようにした。

【0049】送信指向性制御装置128は、実施の形態1と同様に、受信指向性制御装置121、受信指向性制御装置124からウェイトW1(t)、W2(t)を得る。図2の201のような時間で到来する所望信号のタイミングにおいて受信指向性制御装置121は指向性パターンを202のように形成し、203のような時間で到来する所望信号のタイミングにおいて受信指向性制御装置124は指向性パターンを204のように形成しているとする。

【0050】このときの各到来波の受信電力は、図3に示したとおりである。201は201のタイミングで到来する所望信号の受信電力を示し、203は203のタイミングで到来する所望信号の受信電力を示しており、205、206は、到来する干渉信号の受信電力を示している。指向性パターン202と指向性パターン204とを比較すると、所望信号対干渉信号電力との比は、指向性パターン202よりも指向性パターン204の方が大きいため、例えば、SIR測定器440の出力値がSIR測定器439の出力値よりも大きくなる。

【0051】送信指向性制御装置128は、SIR測定器439、440の出力から、各タイミングで計算された所望信号電力対干渉信号電力比の大小を比較して、送信指向性パターン204を選択する。この送信指向性パターンに従って送信指向性制御装置128から出力される制御信号と送信信号発生装置137から出力される送信信号とが、乗算器129、130、131、132で合成され、アンテナ133、134、135、136から送信される。

【0052】以上のように本発明の実施の形態2によれば、送信指向性制御装置が受信信号の所望信号電力対干渉信号電力を元に送信指向性パターンを決めることで実施の形態1より精度の高い送信指向性パターンを形成することができ、さらに他への干渉を軽減することもできる。

【0053】(実施の形態3)次に、本発明の適応送信ダイバーシチ装置の実施の形態3について説明する。実施の形態1との相違は、送信指向性制御装置128と受信信号のパワを計算する方法が異なる点のみであるため、図1に示したブロック図を用いて説明する。また、実施の形態1と同様の受信環境下で、図2、図3に示した受信

波を受けたものとする。

【0054】送信指向性制御装置128は、各タイミングで所望信号電力対干渉信号電力を測定し、その大きさを元に最大比になるよう、受信指向性制御装置121、124のパターンを合成する。例えば、受信指向性制御

$$W_s(t) = \frac{1}{s_1 + s_2} \cdot (\sqrt{s_1}W_1(t) + \sqrt{s_2}W_2(t)) \quad (8)$$

のように合成すればよい。このとき実施の形態1で用いた所望信号受信電力の代わりに、実施の形態2で用いた所望信号対干渉信号電力比を用いても同様の効果が得られることは言うまでもない。

【0055】本発明の実施の形態3によれば、送信指向性制御装置が各受信指向性制御装置で形成された受信指向性パターンを合成することにより、より最適な送信指向性パターンを形成することができ、さらに他への干渉を軽減することができる。また、送信電力を抑えることができ消費電力を低減することにもなる。

【0056】

【発明の効果】以上の説明から明らかのように、本発明によれば、受信した同一送信信号を到来波毎に分離して、各々の受信信号処理系の受信指向性パターンを選択・合成して送信指向性パターンを生成することにより、送信時の指向性を最適に制御でき、送信精度が向上するとともに、送信側の消費電力を下げることができる。特に、請求項1記載の発明では、到来波を多く捕らえることにより、送信性能をより向上させることができる。

【0057】また、受信指向性パターンを選択して送信指向性パターンを生成することにより、簡単に送信指向性電力を求めることができる。その際、受信信号パワーを用いることで、より簡易に送信指向性電力を求めることができ、所望信号電力対干渉信号電力比を用いることで、より精度よく送信指向性電力を求めることができる。

【0058】

また、受信指向性パターンを合成すること

装置121、124の出力W1(t)、W2(t)を、それぞれのタイミングでの所望信号受信電力s1、s2を用いて、送信用パターン（乗算器に与える複素数）Ws(t)を、

【数8】

(8)

で、より最適な送信指向性パターンを形成することができ、さらに他への干渉を軽減することができる。また、送信電力を抑えることができ消費電力を低減することにもなる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施の形態1における適応送信ダイバーシチ装置のブロック図

【図2】本発明の電波の到来方向と受信指向性パターンとの関係図

【図3】本発明の電波の到来時間と受信電力との関係図

【図4】本発明の実施の形態2における適応送信ダイバーシチ装置のブロック図

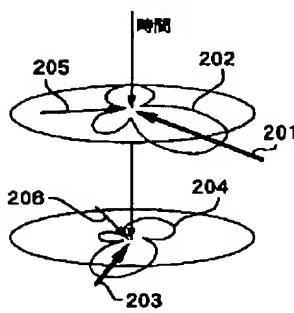
【図5】従来の適応送信ダイバーシチ装置のブロック図

【図6】電波の到来方向と受信指向性パターンとの関係図

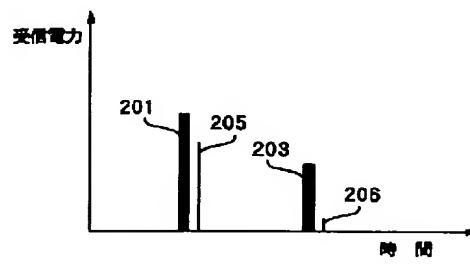
【符号の説明】

101、102、103、104	受信用アンテナ
105、106、107、108	マッチドフィルタ
113、114、115、116	マッチドフィルタ
109、110、111、112	乗算器
117、118、119、120	乗算器
129、130、131、132	乗算器
121、124	受信指向性制御回路
128	送信指向性制御回路
133、134、135、136	送信用アンテナ
139、140	パワ検出器
439、440	パワ検出器（SIR測定器）

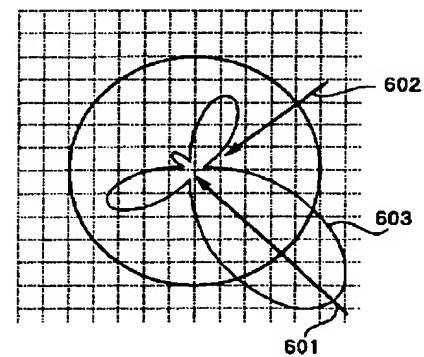
【図2】



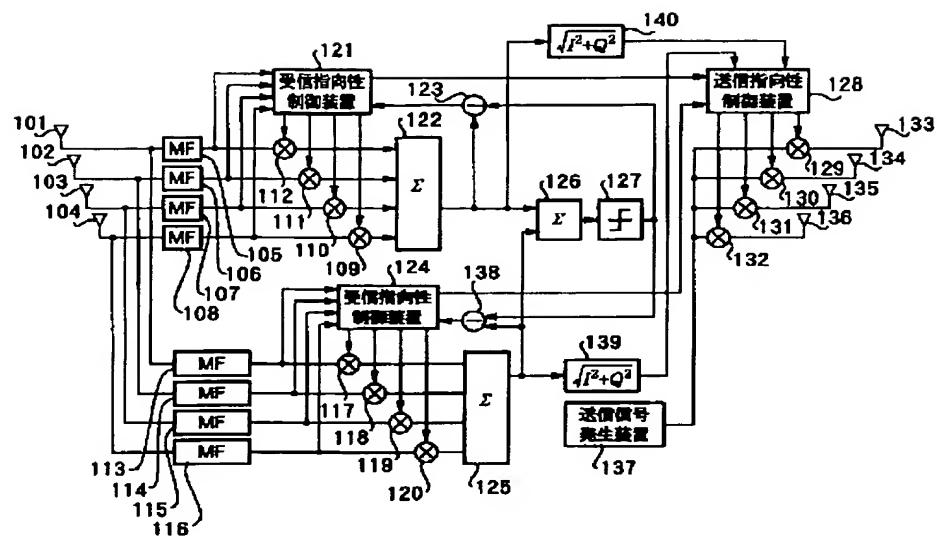
【図3】



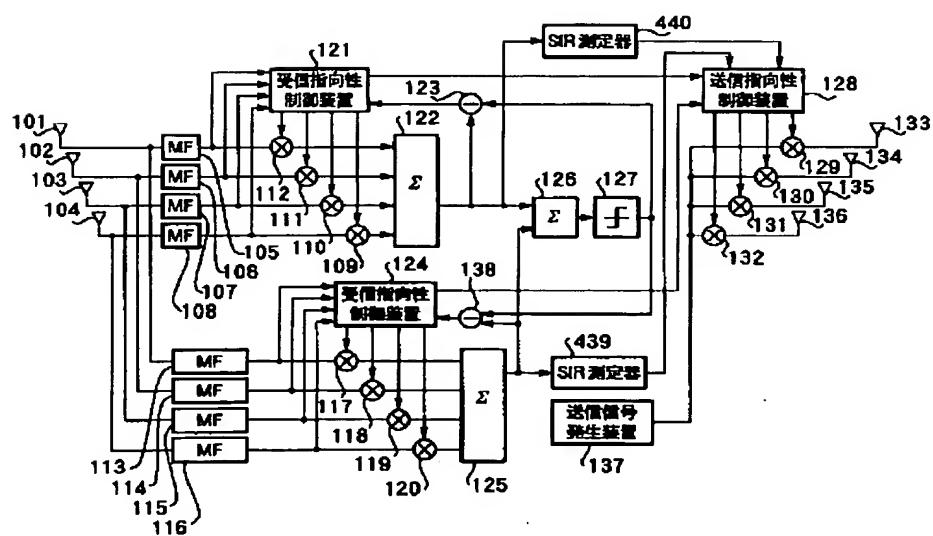
【図6】



【図1】



【図4】



【図5】

